

















報告書抄録

ふりがな	とくべつしせきくまもとじょうあと ふっきゅうじぎょうほうこくしょ								
書名	特別史跡熊本城跡復旧事業報告書1								
副書名	重要文化財長塀復旧等に伴う確認調査								
シリーズ名	熊本城調査研究センター報告書								
シリーズ番号	第5集								
編著者名	矢野裕介 金田一精 真鍋貴匡 原田健司 和田達也 北原 治 岩橋隆浩 河本愛輝								
編集機関	能本市能本城調査研究センター								
所在地	〒 860-0806 熊本市中央区花畑町 9番 6号 1 1096-355-2327								
発行年月日	令和3年(2021) 3月31日								
所収遺跡名	所在地		コード 緯度・経				更 調査期間	調査	調査原因
771 权退邺石	が は、 は、本市 ちゅうおうく 中央区 ほんまる 本丸 1				(世界測地系)		神重規則	面積	神 重原囚
			市町村	遺跡番号	北緯	東経			
(************************************			43201	246 · 247	32° 48′ 15″	130° 42′ 18″	$2017. 11. 6 \sim$ $2018. 1. 31$ $2018. 2. 1 \sim 26$ $2018. 7. 7 \sim 24$ $2018. 8. 9 \sim 31$	140 m²	平成 28 年 熊本地震の 復旧事業
所収遺跡名	種別主な		時代		 主な遺構		主な遺物		特記事項
熊本城跡遺跡群			・近代 石垣、 控石柱		礎石、排水溝、		瓦、陶磁器類、金	金属製品、	
飯田丸							石製品、貝製品		
東竹の丸									
竹の丸									
要旨	熊本城は、加藤清正により築城された近世城郭である。加藤家ののち細川家によって								
	江戸時代を通して維持され、西南戦争で天守や本丸御殿など主要な建物の多くが焼失す								
	るものの、壮大な石垣群が良好な状態で残存している。学術的な価値が高いとして特別 史跡に指定されている。また、宇土櫓をはじめとする櫓群や門、塀などの重要文化財建 造物が残る。 平成 28 年熊本地震で甚大な被害を受けた熊本城は、平成 30 年に策定された『熊本城復 旧基本計画』に基づき復旧を進めている。 本報告書は、特別見学通路の設置に伴う飯田丸・東竹の丸の確認調査並びに重要文化財 建造物長塀の復旧に伴う確認調査の成果をまとめたものである。 飯田丸・東竹の丸の調査では絵図等に描かれた櫓群の礎石を確認するとともに、創建当 初の整地層が把握され、長塀の調査では江戸期の栗石層・整地層と明治期の栗石層との 差異が認められるなど、熊本城の構造解明にとって大きな成果を得ることができた。 この成果を踏まえて、特別見学通路の設置及び長塀の復旧が進められた。								

熊本城調査研究センター報告書 第5集 特別史跡熊本城跡復旧事業報告書1

- 重要文化財長塀復旧等に伴う確認調査 -2021 年 3 月

発行 熊本市熊本城調査研究センター

〒860-0806 熊本市中央区花畑町9番6号

Tel (096) 355-2327

印刷 コロニー印刷

〒860-0051 熊本市西区二本木3丁目12-37

Tel (096) 353-1293